

令和5年度 まちづくりトーク 主な意見

開催日:7月21日(金)

会場:三良坂コミュニティセンター

参加者数:54人

参加者の発言	市の発言	備考
<p>三良坂地区の学校も統廃合され、旧灰塚小学校は保育所に活用されているが、旧仁賀小学校はそのままの状態である。また、旧三良坂小学校の跡地など、廃止した公共施設をどのように活かしていくのか。また、4月から、グループホームみらさか(現グループホームのぞみ苑)が優輝福祉会に無償譲渡されているが、旧灰塚保育所も優輝福祉会に活用してもらうことはできないか。施設周辺の草刈りなどを今後どうするのか。</p>	<p>廃校等の利活用についてのご意見である。旧三良坂小学校跡地については、様々な利活用を考えることができるが、敷地の一部が急傾斜地に指定されており、危険であることを考慮しなければならず、利活用は限定的になってくる。現在、具体的な利活用の案はないので、地元のご意見やアイデアを聞きながら、検討していきたい。旧灰塚保育所の利用については、今後、検討を進めていきたい。全国的に見ても、廃校利用が地域の活性化にもつながっている事例もあることから、本市でも活かす取組を実践していきたいと考えている。今後、三良坂支所とも連携しながら取り組んでいく。</p>	
<p>災害に強いまちづくりに取り組んでいただいていることに感謝している。災害の際には、避難誘導の方法や通知が重要である。市内における音声告知放送の普及率について、100%をめざして取り組んでほしい。町内をパトロール巡回しているが、まだ音声告知のついていない家庭がある。</p>	<p>・避難指示や災害情報の伝え方についてのご意見をいただいた。ケーブルテレビの加入率は約65%であり、旧町村については、9割超の方々に加入いただいている。加入率が低くなっているのは、旧三次市街地の加入率が低いためである。音声告知放送は、災害情報を提供する手段として非常に有効である。音声告知放送で伝えることができない方々への周知方法を検討しなければならない。現在、高齢者等の自宅にスマートスピーカーを設置する事業を実証実験している。スマートスピーカーとは、スピーカーに話しかけることによって電話ができる、問いかけに返答があるというものである。デジタル化の一環として、ハンディキャップをお持ちの皆さんに大切な情報が届くような方法を検討している。今回の実証実験の結果を踏まえ、本格運用ができる状況になれば、市民の皆さんにも周知をしっかりとしていきたい。</p> <p>・市では、音声告知放送やLINEなどの多様な手段を活用して、避難情報や防災情報を発信している。音声告知放送は、市内の約7,900軒で契約されている。音声告知放送には、ケーブルテレビの機器を用いていることから、集合住宅では大家さんの許諾が必要であるという課題もある。そのため、他の手段として、LINEや防災メール、スマートフォンでの防災アプリなどがある。また、エリアメールについては、携帯電話を所持している方に必ず届くようになっており、最近の機種によっては読み上げることもできる。</p>	
<p>災害時などの告知手段として、ケーブルテレビ以外に複数の手段が必須であると思う。全国的には、屋外におけるサイレンや放送を重視している地域がある。旧三良坂町では活用されていたが、現在、運用はされていない。屋外における告知放送をしてほしい。</p>	<p>・これまで屋外放送を活用していた地域では、当たり前にある手段として、安心につながるものと理解している。しかし、線状降水帯のような大雨時には、その音は聞こえないというデメリットがある。したがって、本市の方針としては、音声告知放送や普段から持ち歩いているスマートフォンなどを活用して、いろいろな避難情報や本市の状況をお伝えする取組を進めている。多重的な情報発信の方法を準備していくことが重要である。例えば、民間事業者のドコモなどと連携してエリアメールをお届けする等の工夫を重ねている。市では、いざという災害の時に備えて、情報発信にLINEを活用している。日頃から、本市のLINEと友達登録をされた方にいろいろな情報をお届けしているが、普段からつながりを持っておくことが、いざという時に役立つので、登録をさせていただきたい。現在は、市民の約25%の皆さんにLINE登録していただいている。いざという時のために備えてほしい。</p> <p>・スマートフォンが上手に扱えない方々もいることから、市内各地においてスマホ講習会などを開催している。楽しく操作を学びながら、防災アプリなどを入れることもできるので、参加していただきたい。</p>	
<p>三次市では、大雨時に、避難指示の前に高齢者等避難指示が出るはずである。しかし、先日、和田地区において、避難指示が高齢者等避難指示の前に急に出されており、避難指示の出し方はどうなっているのか。高齢者等が避難する時間がないのではないのか。順序を追って発令されれば、避難する者の準備につながる。</p>	<p>・今回の和田地区における避難指示の出し方についてのご意見である。警戒レベルは5段階になっており、高齢者避難はレベル3、その次がレベル4、もう既に災害が発生している状況がレベル5となる。</p> <p>・先日の降雨時における避難指示については、本市に警報が出て、次の土砂災害警戒情報が出るまでに3分間しか猶予がなかったため、レベル3の高齢者避難指示ではなく、レベル4の避難指示を出すことになった。河川の水位が少しずつ上昇している時や、台風の経路などが予測できる時などでは、警戒レベルを順々に上げ、早めの避難を呼びかけて、避難所を開設することができる。しかし、大雨の特別警報時においては、段階を踏んで避難指示を出すのではなく、急にレベルの高い避難指示を出すこともある。最近の九州や秋田県などでの災害時においては同様のケースであった。大雨時には、刻々と状況が変わるので、皆さんには、スマートフォンやテレビ、LINE、防災アプリなどを活用して、備えていただきたい。</p>	

令和5年度 まちづくりトーク 主な意見

開催日: 7月21日(金)

会場: 三良坂コミュニティセンター

参加者数: 54人

参加者の発言	市の発言	備考
<p>高齢者の皆さんが自宅にこもらないようにするため、八雲集会所において、6月から、「わっはっは」という会を、地域の方々と協力して開いている。少しでも、元気な三次につながればと思っている。</p>	<p>・三良坂地区の商店街は活気があり、空き店舗が少なくなっているように思う。新しい構想があり、多くの人が集い、交流し、新たなイノベーションにつながっていくのではないかと。各所と連携を深め、三良坂地区に関係する人を増やし、三良坂地区の活性化を創造したい。まちづくりにはわくわく感が重要であり、10年後の三良坂地区や商店街が楽しそうだと想像できれば、自然にまちづくりに参加したくなると思う。引き続き、経過報告を聞かせてほしい。 ・高齢者が集い、楽しい時間を過ごす取組は非常に重要である。この日頃からのコミュニティのつながりは、いざという時に力を発揮する。地道な取組に感謝している。また、万が一のことを想定して備えをしていただきたい。</p>	
<p>旧三良坂小学校には、避難所の看板が立っているが、体育館周辺は草が繁茂して牧草地のような状態であり、避難所として使用できるか確認してほしい。学校や保育所の周辺においても草がたくさん茂っている。</p>	<p>・旧三良坂小学校の施設周辺の草の状況について確認する。 ・旧三良坂小学校については、現在、避難場所に指定していない。看板については、現地確認して、対応していく。</p>	<p>※現地確認済。看板については撤去済。</p>
<p>三良坂中学校の外観は非常に汚い。子どもたちが通いたいと思うようにしなければならない。改修すべきであると職員に伝えたところ、予算がないという説明を受けた。予算を確保するべきではないか。</p>	<p>三良坂中学校の外壁が黒ずんできていることについては、地域の方々も心配されていると認識している。今日も、状況を確認してきたところである。しかし、耐震の問題や、安全上、子どもたちの通学等に支障がきたす状況ではないため、改修の優先度が低い。今年度は、三良坂中学校校舎の屋上については雨漏りがあることから、防水の改修工事を進めている。施設の改修などは、児童・生徒への安全性を最優先に、計画的に対応しているところである。</p>	
<p>保育所が灰塚地区にあるが、送迎に時間がかかってしまうことから、三次市街地に通勤している方は三次市街地の保育所などに子どもを預けている。旧三良坂小学校の跡地に移転することは難しいか。また、旧灰塚保育所は、老人施設として使用してもらうこともできるのではないか。</p>	<p>ご意見としていただく。</p>	
<p>みらさか小学校のプールについて、夏休みになって子どもたちが通うことになるが、現況が悪い。早く整理をするべきである。また、体育館の横にある敷地にプールをつくることはできないのか。</p>	<p>みらさか小学校のプール授業については、バスで送迎している。平成27年に現在のみらさか小学校に移転した時に、当時建てた旧三良坂小学校の校舎は耐震問題があるため廃止したが、プールは利用できる状況であった。子どもたちの時間を確保しながら、プールの授業をしている状況である。</p>	
<p>・三良坂福祉保健センターが避難場所になっているが、鍵の保管場所や管理者がわからない。避難したい場合に避難できないのではないか。 ・災害時に、三良坂支所まで鍵を取りに行くのか。それでは間に合わないのではないか。常会が管理するなどの方法はないのか。</p>	<p>・三良坂福祉保健センターは、基幹避難所になっていることから、三良坂支所が鍵を管理し、職員が施設の開閉を行っている。 ・基幹避難所であることから、市職員が鍵の開け閉めをしている。地元で管理をするなど、より柔軟な運用方法があれば、今後協議をさせていただきたい。</p>	
<p>4日前の大きな夕立によって、水が溢れて、自分の家より下手にある数軒が被害にあった。堰板を落としたくても、グレーチングが固定されているからできない。設置したのは市であるから、撤去してほしい。2日前に、三良坂支所の職員が現地確認に来られたが、課題として持って帰られた。職員は、現状をよく見て、周りの協力を得ながら、対応するべきではないか。</p>	<p>最近2回にわたり、商店街の水路から水が溢れ、支所職員が現地に駆け付けた。現在、道路に接している水路勾配変更の検討、あるいは、ポンプによる排水を行うなど、他の解決方法を検討しており、また相談させていただきたい。</p>	
<p>小学校の子どもが2人おり、共働きのため、三良坂支所の建物に移設された放課後児童クラブを利用している。誰もが気軽に出入りができ、地域に開かれている反面、セキュリティーが低いのではないか。防犯カメラがなく、凶器を持って入ってきた人への対策をどのように考えているのか。</p>	<p>放課後児童クラブが、三良坂支所の2階に移設されたことによって、以前に比べると、子どもたちの移動距離も短くなり、利便性も向上した。また、安心できる環境を整備できたものと思っている。2階に開設するにあたり、お迎えの際にインターフォンをつけるなど工夫しており、準備段階から、出入りのしやすさや防犯・安全対策について、現場の支援員や保護者から意見をいただきながら進めてきた。現在、小学校や中学校など、子どもたちが過ごす場所では、危機管理マニュアルを策定することになっている。三良坂地区の放課後児童クラブにおいても、熱中症や大雨対応、不審者などの具体的なマニュアルを作成して、支援員と教育委員会で確認をしながら、見守りをしている状況である。特に、今の場所になって初めての夏休みとなるが、多くの利用希望を出していただいている。そのため、改めて、児童クラブで見守りをしていただいている支援員の皆さんに集まっていただき、注意事項の確認を行ったところである。安全・安心が基本となることから、今後とも、現場の声や状況を把握しながら、具体的にできることを検討していく。</p>	<p>※防犯カメラ設置済。</p>

令和5年度 まちづくりトーク 主な意見

開催日:7月21日(金)

会場:三良坂コミュニティセンター

参加者数:54人

参加者の発言	市の発言	備考
<p>市長は芸備線対策協議会の会長であるが、三良坂駅にあるリパティホールを知っているか。開業90周年を迎える三良坂駅前にはロータリーが整備されるなど、個人的には、福塩線の府中駅から塩町駅までの区間では立派な駅と思う。しかし、ロータリーなど整備されているにもかかわらず、活用されていない。駅舎や外装は三次鉄道部および市の管理であると思うが、駅の周りについては周辺住民が環境整備をしている。そのまま廃れていくことを、見てつらく感じる。団地造成によって小学生も増加しており、その子たちが高校生になった際に、福塩線が廃線になっていると困るのではないか。また、海外からの技能実習生も、福塩線を活用している。芸備線だけではなく、福塩線についても、市として、注視していただきたい。市が主体的にイベントを開催するなど、商店街を含めて、三良坂駅を活用してはどうか。</p>	<p>三良坂駅前の活性化については、商店街や住民自治組織、市が連携して、進めていくことが重要である。リパティホールは、指定管理施設として、民間事業者へ委託して、管理・運営をしていただいている。どのようにすればにぎわいが創出できるのか、課題として検討していく。先日の三良坂祇園まつりでは、若者が中心となり、空きスペースを活用して、レッドカーペット上を歩く、浴衣ファッションショーのイベントを開催されていた。まちづくりには、いろいろな世代の皆さんが考えて、いろいろな団体の皆さんと連携していくことが重要であり、今後も、地元の皆さんと協議しながら、三良坂地区のにぎわいのあり方について模索していきたい。</p>	
<p>市長の政策である漢方薬材の産地化について、現状を教えてください。農業をしている人は関心を持っていると思う。将来的に、自分たちの地域で栽培をしたいと思った際に、栽培することは可能か。</p>	<p>現在、漢方薬材の産地化を進めている。コロナ禍によって健康志向が広がり、漢方薬の需要は伸びている。漢方薬材の8割程度が中国から輸入されているが、安定的に入ってくる保証はなく、価格も乱高下している状況である。また、中国国内において、漢方の消費量も増えていることから、国内での生産価値は5年前以上に高まっているといえる。これまで、薬用作物(ヒロハセネガ、カノソウなど)を試験栽培しており、関西にある企業と試験栽培契約を締結している。薬用作物を栽培することは容易なことではなく、苦労もある。試験栽培への参加については、改めて、詳しい資料や情報などをお伝えさせていただきたい。今後の取組についても、広報などで周知していく。</p>	
<p>馬洗川につながる長田川という細長い川がある。定期的に土砂を撤去してほしい。</p>	<p>長田川は、県の河川管理となっている。現在、県や国と連携して、計画的に堆積土砂の除去や草木の伐採をしながら、河川断面を大きくしている。他の箇所もあることから、毎年実施することはできないが、計画的に実施していく。県と連携しながら、現場を確認した上で、今後できる計画をしっかりと立てていきたい。これまで手を付けることができなかった馬洗川や江の川において、土砂を撤去するだけで安心感が違う。草木や中州にある土砂を撤去することにより、川の流れがよくなったと、市民の方々から聞くことも多いため、県や国に対して要望している。国も、防災・減災、国土強靱化のための5か年加速化対策に基づき、防災・減災にしっかりと取り組むために、予算を確保されているので、できる限り要望に応えるようにしていきたい。</p>	<p>※県が現地確認済。</p>
<p>芸備線について、三次から広島まで2時間かかるので、1時間で行くようにしてほしい。JRと協議してほしい。広島駅から博多駅まで新幹線で1時間である。</p>	<p>現実的に、広島―三次間を1時間でつなぐことは不可能である。しかし、スピード化については課題として認識しており、時間短縮について、JRに要望している。ただし、普段から、どれだけ多くの皆さんに利用していただけるかが、持続可能な公共交通や交通ネットワークにつながっていくと考えている。そのため、普段から利用される芸備線や福塩線でなければならない。「バス&レールどっちも割きつぷ」という、三次―広島間の往復切符を販売している。行きにJRかバスを利用して、帰りはその反対を利用するという切符である。通常、往復で2,800円かかるが、2,000円で販売している。JRと三次市とバス運営会社から、それぞれ負担金を出し合い、割安切符を販売することにより、少しでも芸備線やバスを利用していただくための取組をしている。ぜひ、カーブの観戦や広島市内へお出かけの際などに、利用していただきたい。皆さんの普段の利用が、交通ネットワークや鉄道を守ることにつながることから、ご協力をお願いする。スピード化については、引き続き、できる限り要望をしていく。</p>	